7.22 B'z凱旋ライブ @ 津山文化センター

㊧稲葉さんゆかりの品が展示されているマルイ本店の2階。デビュー当時の稲葉さんの写真を拡大したパネルもある＝津山市元魚町
㊨凱旋ライブに向け、津山市役所1階ロビーには巨大パネルが設置されている＝津山市山北

お帰り稲葉さん 街ワクワク

ゆかりの品 展示中

人気ロックバンド「B'z」が22日、ボーカルの稲葉浩志さん(52)の地元・津山市でライブを行う。28年ぶりの凱旋ライブまであと2日。津山の街も盛り上がりを見せている。

中心市街地を歩くと、あちこちにB'zの看板やのぼり旗が目に付く。ライブ会場の津山文化センターから徒歩約10分の元魚町商店街。マルイ本店2階では、稲葉さんゆかりの品を展示中だ。家族らの協力を得て集めた品々で、学生時代に使ったテニスのラケットや定規などが飾られている。

28年前に美作女子大学・同短期大学部(現・美作大学)であったB'zのライブの資料もある。観覧無料で、ライブ終了後も展示を検討しているという。

ライブ当日の22日午後2時からは、同商店街と津山銀天街で「夏の市ビアガーデン」が開かれ、凱旋公演記念Tシャツも販売される。協同組合元魚町商店街の野亀千浩理事長(57)は「すでにファンの方から問い合わせを頂いている。当日は津山の街を楽しんでもらいたい」と期待する。

ソシオ一番街でも同日午後4時から「全日本地ビールフェスタin津山」が開かれる。B'zの音楽をかけて盛り上げるという。

稲葉さんの凱旋を待ちわびているのが、地元の家族や友人らだ。和菓子会社を営む兄の稲葉伸次さん(56)、稲葉さんの「高音」を見いだした高校時代のバンド仲間の頼経英博さん(53)＝美作市立英田中学教頭＝、稲葉さんの高校時代の担任、黒瀬定生さん(77)に話を聞いた。　(聞き手・国米あなんだ)

幼少から 突き詰める強さ

稲葉伸次さん＝津山市沼

兄 稲葉伸次さん

昨年83歳で亡くなった父は長年、津山でB'zのライブが開催されるのを心待ちにしていました。やっと実現するのかと、とてもうれしいです。

弟の浩志とは4歳差。僕が小学校高学年の時、近所の友人と遊んでいる所に弟はよく1人でくっついてきていました。体格も体力も差があるのに、よく物おじしないなと幼いながらに思っていました。自分がしたいことを突き詰める強さがあるんだと思います。

僕は中学の時にディープ・パープルやヴァン・ヘイレンに夢中になりました。小遣いをためては洋楽のレコードを買っていた。僕が大学進学で実家を出た後、浩志は置いていったレコードを聴いていたようです。

高校の文化祭にバンドを組んで出演すると聞いた時は驚きました。どちらかというと人前に出たがる性格ではなく、歌うのも聴いたことがなかった。夏休みに実家に帰ると、隣の部屋から浩志がラウドネスを歌う声が聞こえてきた。「高い音域が出るんだな～」と驚いた記憶があります。

浩志は横浜国立大学の教育学部に進学後もバンド活動を続けました。教員になることを望んでいた母は心配して「ちゃんと就職するよう言って」と僕に頼みました。当時、岐阜県で働いていた僕は仕事で東京に行ったついでに浩志と会いました。話を聞くと「音楽をしたい」と言う。僕は「教員免許を取って、その後は好きなことをしたらいい」と伝えました。

芯があるやつなので、進む道は任せればいいと思っていました。まさか今のB'zのように人気バンドのボーカルになるとは思っていませんでしたが。

「弟がロックスターってどんな感じ?」と聞かれることがあります。でも、兄と弟という関係で変化はありません。2人で話す時は方言だし、必要があれば連絡を取るし……。

今年の4月、浩志と何十年ぶりかに鶴山公園(津山城跡)に桜を見に行きました。「高校の時も毎年見ていたけど何とも思わなかった。改めて見るときれいだ」と言っていた。僕は「結構良いところだろ。津山の良さを発信してくれや」と言いました。

B'zのライブで街が変わる、とは思っていません。それでも、街を盛り上げていこうという機運が地域の方から生まれていることに感謝しています。

最高のライブを期待

同級生 頼経英博さん

稲葉さんとの思い出を語る頼経英博さん＝美作市福本

稲葉と私は津山高校の同級生でした。私はヘビーメタルバンド「ラウドネス」の大ファン。高校入学時から文化祭「十六夜祭」に出演し、コピーバンドとして演奏するのが目標でした。問題は高音域のボーカルを誰に頼むか。気付いたのが稲葉の声だった。テニス部の練習で「フォアトーッ!」「ドンマイ!」と高く通った声が響いていた。

稲葉だけの独特な声質。ラウドネスにぴったりじゃないかと思った。

共通の趣味だった音楽を通して仲良くなりました。私がギターを弾いて、稲葉が歌って。「人前で歌うなんて恥ずかしい」と十六夜祭への出演は断られていました。でも、3年になって出演を決心してくれた。

7月上旬に朝日新聞に掲載された稲葉のインタビューの中に「彼(頼経さん)のギター演奏をみんなに聴かせたい」(中略)バンド演奏をすることになった」というくだりがあった。稲葉がそんなことを思っていたなんて彼の口から聞いたことはなかった。てっきり私1人がリーダーシップを取って進めた話だと思っていた。協力してくれたことに改めて感謝しています。

ベースとドラムのうまい同級生たちを誘いコピーバンド「ICBM」を結成しました。文化祭当日。稲葉は練習のしすぎでのどをつぶしてしまい、声はガラガラ。それでも裏声で歌いきった。稲葉は声が出なくて悔しかったでしょう。私は、自分たちの世界をあの日、作ったと思った。最高のメンバーでした。十六夜祭がICBMの最初で最後のステージ。その後はみんな受験勉強に打ち込みました。

大学を卒業して、いずれ稲葉も津山に戻るのかと思っていた。それがロック歌手としてデビュー。驚きましたよ。バンドに巻き込んだ自分のせいじゃないか、と思った時もある。人気が出て、評価されている姿を見ると、誘ってよかったんだとほっとします。稲葉がステージに立ち続ける限り、応援する。津山で、最高のライブをしてほしい。

当時の卒業アルバムを見る黒瀬定生さん＝美咲町打穴

教え子の活躍うれしい

高3の担任 黒瀬定生さん

稲葉くんが高校3年生の時に担任をしていました。3年生といったら大学受験に集中する時期。春には部活をやめて勉強に取り組む生徒も多い中、彼は部活も続け、秋には文化祭でバンド出演するという。

彼は部活も勉強にも熱心で、「真面目」という言葉が一番似合うような生徒。バンドをすると聞いた時は驚いたぐらいです。

夏の保護者面談で「バンドはやめて勉強しなさい」と指導した記憶があります。その時はうなずいているように見えたんですが、決してやめなかった。担任としてはまいりましたが、情念を感じましたよ。

高校卒業後、稲葉くんの歌を聴く機会があった。教え子たちが同窓会を開き招待された時です。2次会で入った喫茶店のカラオケで、ハードロックの曲をいがるような声で歌った。歌い終えた直後、拍手が鳴り響いた。他の客もわっと盛り上がって驚きました。

私は担任として「勉強せえ」としか言えませんでした。でも、教え子がスポーツでも音楽でも自分の好きな分野を見つけて活躍している姿を見るのはとてもうれしいです。